



## 秋田八丈の製作と研究

滑 川 五 郎

(78才)

滑川氏は、秋田市に生まれ、明治36年秋田市羽二重機業伝習所を卒業され、直ちに紋織物および各種絹織物の製織に従事され、その後大正5年に秋田八丈の特

殊染色法の伝習をうけ、その研鑽に努めた。

この秋田八丈の特殊技術は独特な織技法と野生植物浜なす等の煎汁による染色法にあつて日光、酸、アルカリなどに強く、従つて洗濯にも堅牢で、長年の保存に耐える特徴をもっており、この染色法はわが国織物界に確固たる地位を占めている。これが氏によって研究され製作されて今日に至つているものである。秋田八丈が全国的にも尊重されその真価を発揮していることは、ひとえに氏の60余年の長きにわたる研鑽努力によるものである。



## 社会教育の振興

渡 邊 萬 次 郎

(74才)

渡邊氏は、福島県に生まれ、大正5年東北帝国大学理科大学地質学科を卒業、以来同大学の教授、理学部長をつとめられ、昭和31年秋田大学長となり現在に至っている。

氏は学長となるや大学の充実を図ることはもとより、大学と地域社会の結びつきをモットーに秋田の資源開発、鉱業博物館の建設、さらには八郎潟の総合学術調査等に尽くされた。

また、氏は県総合開発審議会委員等として、本県の教育計画の策定、観光資源の開発に尽くされたほか、特に社会教育委員および社会教育講師団の講師として県内の婦人会、青年会等を指導され、本県の社会教育振興のため貢献している。



## 水稻の品種改良と短歌指導

大 黒 富 治

(71才)

大黒氏は、秋田市に生まれ、大正4年農林省農事試験場陸羽支場において寺尾博士の指導を受け、かつて本県奨励の作付最高品種とされた「陸羽132号」の育成選出に成功、さらに県の農事試験場にあつて耐冷耐肥性の強い早生種「秋田1号」「秋田7号」の育成選出に成功するなど、本県の水稲品種の改良と栽培技術の普及に尽くされた。

また、氏は文学に親しみ、大正4年「アララギ」に入会以来50年の長きにわたって作歌活動を行ない、アララギ同人の先輩というのみならず、本県歌壇の第一人者として後進の指導にあたり、短歌の普及発展に貢献している。



## 農村医療と社会福祉

大 谷 博 信

(58才)

大谷氏は福島県相馬市生まれ、昭和8年東北帝国大学医学部を卒業され、同16年雄勝中央病院外科長として本県に勤務し、同23年に院長となり、現在に至っている。

氏は近代医学の発達の反面、農村辺地の保健衛生や医療の実情は、その恩恵をうけず、農村特有の疾病や風土病があとをたたないことに思いをいたし、県下にさきがけ辺地の巡回診療を行なった。氏はこれをさらに県厚生農協連所属9病院の医師等呼びかけ「秋田県農村医学会」等を創立し、農民の健康管理向上に貢献している。

また氏は、目の不自由な子どもたちのため優良図書の点訳を行ない、これを盲学校へ贈るなど愛の奉仕を続けている。



## 秋 田 の 観 光

### 秋 田 市 竿 灯 会

(代表者 林 次 郎)

秋田市竿灯会は、本県の代表的な郷土芸能であって、かつては外町の職業人によつて演技されていたのであるが、昭和6年竿灯会が組織され、行事の運営も統一された。この竿灯会も当時は会員1千名程度で、竿灯も30本であったが、会員相互の努力により現在では会員2千名をこえ、竿灯も90本をこえる大きなものとなって東北三大夏まつりの一つとして今日の隆盛を迎えるに至った。

竿灯の妙技のほどは去る36年の秋田国体で天皇、皇后両陛下ご来臨の八橋競技場において公開演技して選手役員の絶賛を博し「秋田の竿灯」の声価を確固たるものとし、また38年には東京国際スポーツ大会で、さらには昨年の東京オリンピックにも招かれ外人選手役員にその抄技を披露して秋田の竿灯から「日本の竿灯」として国の内外から称賛され、観光秋田の名を高めている。